

第2回 景観専門委員会

議 事 要 旨

【日時及び場所】

日 時：平成18年1月26日（木）13：30～16：00

場 所：島根県市町村振興センター 6階 大会議室1

【出席委員】

藤岡委員、藤田委員、松本委員、吉田委員

（坂田委員長は急遽欠席のため、藤岡委員が委員長代理を務めた）

【議事次第】

開 会

挨拶 （松江市助役、国土交通省 出雲河川事務所 所長）

出席者紹介

議 事

1. 第1回大橋川周辺まちづくり検討委員会・景観専門委員会について（再確認）
2. 大橋川沿川における現況の景観について
3. 景観専門委員会の今後の流れと基本方針検討手順について

閉 会

【配付資料】

資料1-1 大橋川周辺まちづくり検討委員会設立趣旨について

資料1-2 景観専門委員会規約について

資料1-3 第1回大橋川周辺まちづくり検討委員会・景観専門委員会議事要旨

資料2-1 大橋川沿川における現況景観について

資料2-2 参考資料 景観特性に関する考察

資料2-3 大橋川沿川における現況景観について（説明資料）

資料3-1 景観専門委員会の今後の流れと基本方針検討手順について

資料3-2 景観専門委員会の今後の流れと基本方針検討手順について（説明資料）

【議事概要】

1. 第1回大橋川周辺まちづくり検討委員会・景観専門委員会について（再確認）

（設立趣旨、規約、議事要旨資料についての紹介）

・質問、意見等特になし

2. 大橋川沿川における現況の景観について

1. 景観要素の整理について

- ・ 既往のアンケートの結果で、良い場所やぜひ残してほしい場所といった具体的な意見はないのか？
→ 上流部左岸のヤナギ並木などは、好きな場所として挙がっている。〈事務局〉
- ・ 『松江八景』、『宍道湖八景』など、今まで評価されてきた景観等を参考にして、情緒的な観点もとりにいれると、地域に根づく護岸整備につながっていくのではないか。
- ・ 常に見られる固定的な景観だけでなく、「朝霧に浮かぶシジミ舟」「遠くに見える大山」など、季節的なものを含め時折見られる風景への評価も行うべきである。このような要素も大橋川の景観では重要なのではないか。
- ・ 田山花袋（「山水小記」）や島崎藤村（「山陰土産」）らの文学作品の中にも大橋川沿川についての情景が描かれている可能性があるため、それらも参考になるのではないか。
- ・ 現時点のポイントとして、地域の方が大事に思っているもの（具体の場所）を整理した方がよい。そして、その理由や背景にある川の構造を整理し、今回の改修で、それらを妨げてしまう可能性があるとしたら、それはどういうふうに残せるのかといったことを検討する具体的なステップも大事である。
- ・ 一方で、昔はあったけれども失われてしまったかもしれないものなど、復活させたいものも具体的に幅広く掘り起こすと良い。

2. 現況景観のまとめ、事業実施のポイントについて

- ・ 近景、中景、遠景、借景の構成をふまえて、整備を考えた方がよい。大橋川で考えれば近景は橋のもとや高欄、中景は対岸のまちなみ、遠景は川の背後に広がる田園や嵩山、借景は大山などにあたる。その構成をふまえた上で、ゾーン毎に大事にするものを整理すると無駄のない整備ができる。例えば、近景が重要であれば、緻密な整備が必要であるし、遠景が重要な場合は、緻密な整備よりも遠景を生かすデザインが重要となる。
- ・ 大橋川の景観的特徴や区間区分については、良く整理されている。
- ・ 今回の4景観（流軸景、対岸景、俯瞰景、水上景）における考察は全国的に行われている一般的な手法である。ただ、大橋川の景観検討においては、天候の変化や時間的な要素も必要ではないか。時間景（時間的な景色）の観点を取り入れることで、先に述べた「朝霧の中のシジミ漁」や「朝霧の大橋」「大山」などの要素を抽出することができる。
- ・ 大橋川は、歴史的な景観、都会的な景観、自然的な景観といったいろいろな景観の要素があり、非常にバランスのいい河川であると感じる。今後の景観検討においては、町の魅力を踏まえ、まちづくりの方向性をフィードバックさせながら、まちづくりと連携しながら行っていく必要性を感じる。
- ・ 景観特性区分図は大橋川の景観をよく整理できており、特に今まで関心の薄かった中下流部の整理がきちんとされたことは評価できる。今後の観光面の検討資料としても使えるのではないか。特に「矢田の渡し」のあたりは「出雲国風土記」で8世紀の初め頃に市場があったという画期的な記述もある。魚もよく獲れていたようだ。ここのあたりも（景観整備で）どう活かしていけるのかが重要である。
- ・ 生活感への配慮、天候の変化の中での情景、歴史・文化といった古くからの経緯などを踏まえ

た上で考えていく必要がある。

- ・ここまで水と生活空間が近い川は全国的にも珍しい。この良さを生かしていくために、大きなまちづくりの話と共に、具体の技術論も含めて、よく議論を行っていく必要性を感じる。

3. 上流部（特に橋南側）に関して

- ・橋南側は、元々は橋北側と匹敵するぐらい景観がよかった場所だと思われるが、埋め立てや活用されなくなったこと、その他の事情によって今のような状態になっている。ラフカディオ・ハーンも橋北側から橋南側を見た際の日本家屋の好印象を書き残している。橋南側については、今の景観を残すというよりも、昔どうであったかをふまえて今後の整備を考えた方が良い。
- ・水辺に都市的な公園がつくられているが、スポット的に置いてあるような感じである。都市の公園としては、緑と空間の確保という点で機能があると考えられ、あまり人が集まらないという評価にはあたらない感じがしている。
- ・現状は、水とまちとの距離が非常に小さい。今回の改修で堤防的なものをつくる場合、一つの可能性として、暮らしの営みの中での川との近さ（つながり）が、切れてしまうおそれがある。橋北側は「まちと水面の近さ（つながり）」の確保が重要だと思うが、橋南側も同様に重要視して、がんばってつながりを保つようにするのか、それとも「まちと水面の近さ」はある程度犠牲にし、散策や対岸の眺望、アクセスのしやすさ、快適さを確保するといった整備をすることで代替するという選択肢もあるかもしれない。いずれにしても、これらの方向性については、まちづくりの議論と非常につながってくる。
- ・（川面が）歩いて見えるのか、建物の2Fから見えるのか、などがある。松江しんじ湖温泉あたりのホテル周辺は道路の存在が宍道湖との親水性を落としている。大橋川に関しても、ヤナギ並木のあたりは自動車を通り、親水性を落としており、歩道にするのも良いのではないかと。
- ・景観の検討とまちづくりとをどう組み合わせしていくのが重要である。護岸のデザインを右岸、左岸で分けて考えるのではなく、両岸で古きよき時代にあった大橋川の風合いをもう一度再生するというようなイメージがよい。ただし、左右岸で持っている役割が異なることから、それを次のステップで細かくつめてゆく必要がある。橋北側は、歴史性という点から人と護岸天端との関わり、橋南側は、道路は切り離せないと思われることから人と護岸、自動車という関係が大事になってくるのではないかと。橋南側は、にぎわいのある風合いを演出しつつ、対岸に見る歴史的な護岸を眺めて、全体的な景観を味わうというような雰囲気になってくるのではないかと思う。
- ・次のステップで、歴史的な風合いを保つ場所、イベントを行うスペース、水上交通のポイントといった具体の整備項目をはりつけてゆく。景観的統一性を念頭に置きつつ、役割を組み立てていけば、全体的な合意形成が図れると思う。植栽や照明、護岸の表面等を左右岸であわせることで、統一感を保つことができる。それらの工夫を今後進めて、どこにもない、「本来の大橋川原風景を残しつつ、新しい時代の松江の顔」を作っていければいいと思う。
- ・かつて、松江の景色では、水辺に石垣があって、その上に直接家が建ったようなところがいいと言われていた。大橋川の北側では、それが今も残っているし、昔は南側でもそういう状態だった。このような点を考慮しながら、検討していく必要がある。
- ・現状の町に合うというだけでなく、まちづくりの目指す方向性（将来形）に合うというものが必要である。一度、（景観検討の）案の中で、たたき台を出して、いろいろ議論してみると良

い。それがむしろ逆に新たな町のあり方を導き出すといったこともあるかもしれない。

- ・都市的な景観、生活感のある景観等、エリア（区域）ごとに違いがあり、それが特徴であると思うが、ちぐはぐ感がないようにエリア間の変わり目をつなぐことが大切である。そのつなぎ方についても全体の整備コンセプトとして、この委員会の初期の段階でよく議論した方が良い。
- ・橋南側、橋北側それぞれに特性・特徴がある。それぞれのコンセプトで考えて、また全体を大きく統一するといったと思う。
- ・大きい川のわりには、親水性や水とともに生きた歴史を持った、わりに珍しい都市だと思うので、この点を生かさなければいけないだろう。

3. 景観専門委員会の今後の流れと基本方針検討手順について

- ・まちづくりにおけるゾーン区分や方向性との関係について確認したい。景観を考える際に、周辺の町の状況との関連が非常に深いので、まちづくりにおいて具体的な方向性があるのか、あるいは、基本的にはまず現状をベースに考えるスタンスになるのか？
 - これから、まちづくりの委員会においても、まちづくりの基本方針の議論が始まるころである。坂田委員長には、まちづくり検討委員会の委員も兼ねて頂いている。景観を中心に議論したものをまちづくりの委員会にしっかり報告し、また、まちづくりの委員会での議論を景観の委員会にフィードバックしていただきながら、並行して進めてまいりたい。〈事務局〉